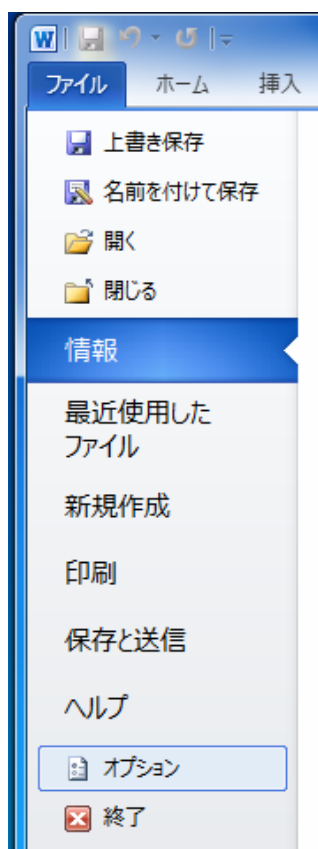


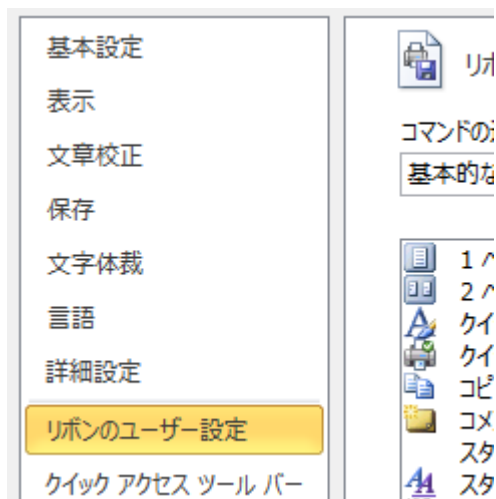
# ワードでフォームフィールドを使用する

## 1. 開発リボンの表示

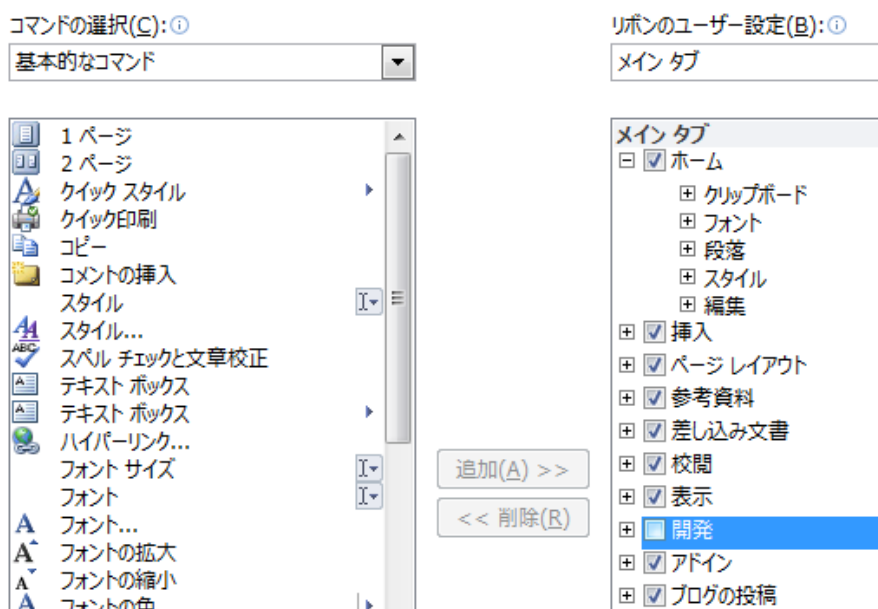


フォームフィールドを作成するにはまず、「開発リボン」を表示します。

開発リボンは「ファイル」から「オプション」ボタンを押してオプション画面を呼び出します。



オプション画面の「リボンのユーザー設定」を選択し、



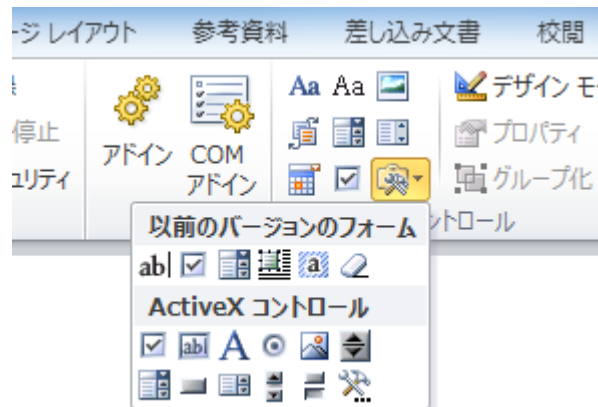
「開発」と書かれた部分にチェックを入れます。

この状態で「OK」ボタンを押すと開発リボンが表示されます。

## 2. フォームフィールドの挿入

次に参照されるフォームフィールドを挿入します。

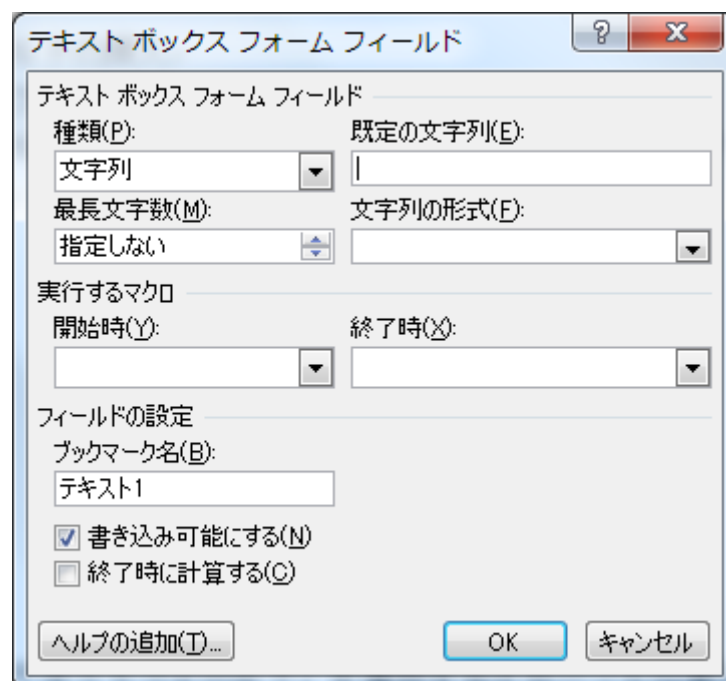
フォームフィールドは、「開発リボン」の中にある「以前のバージョンのツール」をクリックします。



その中にある「テキストフィールド」を選択するとカーソル位置にフォームフィールドが挿入されます。

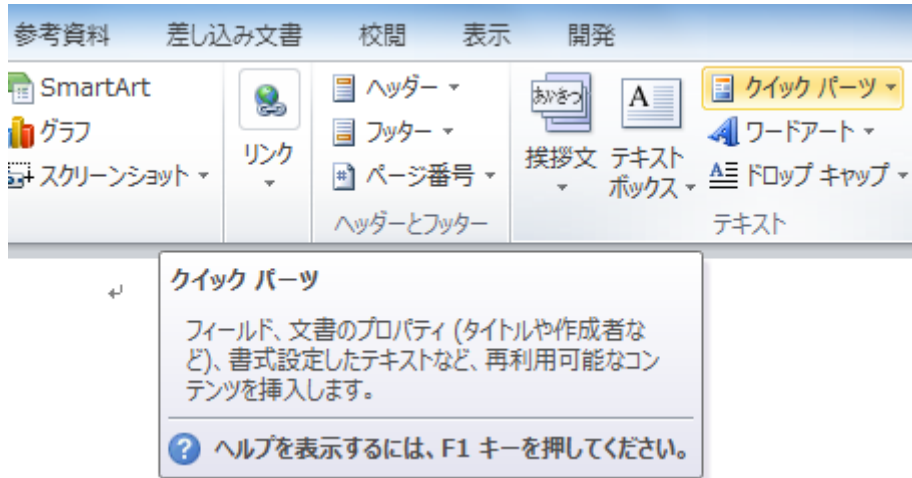
## 3. プロパティの設定

挿入したフォームフィールドをダブルクリックするとフォームフィールドのプロパティが表示されますのでブックマーク名を確認して「終了時に計算する」の部分にチェックをしておきます。

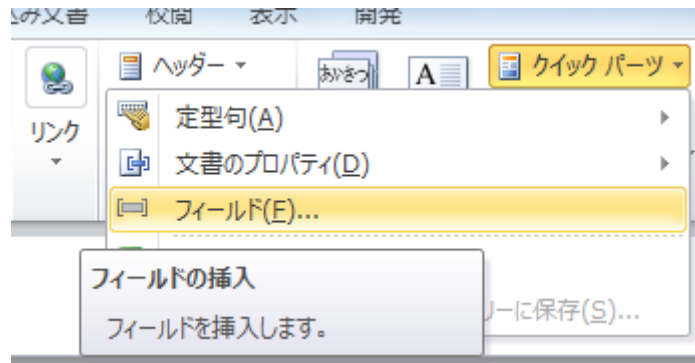


#### 4. 参照フィールドの挿入

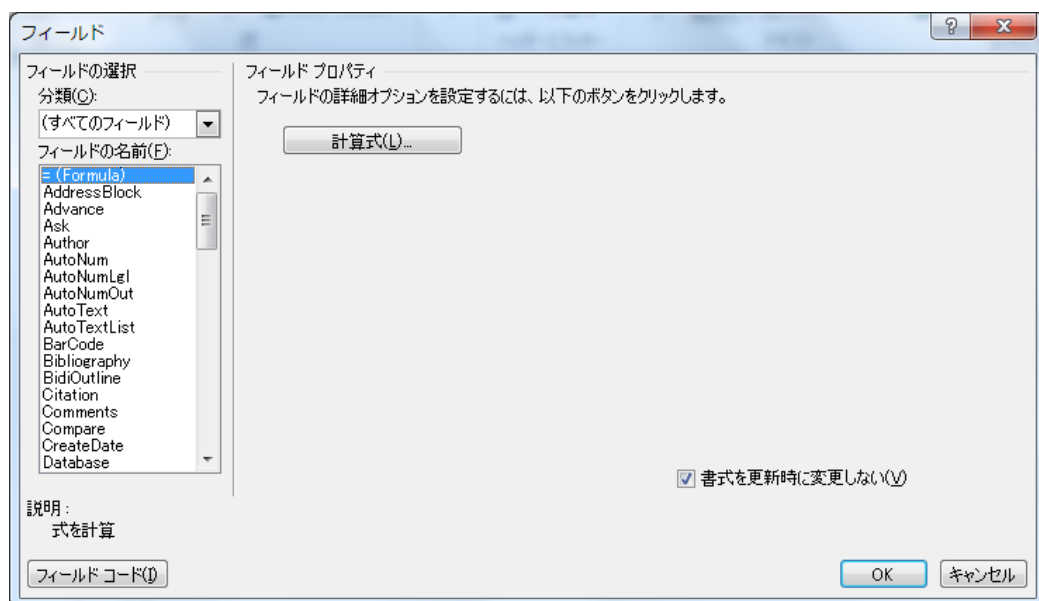
参照フィールドは、フォームフィールドの内容を表示する部分に挿入します。挿入方法は「挿入」リボンにある「クイックパーツ」をクリックします。



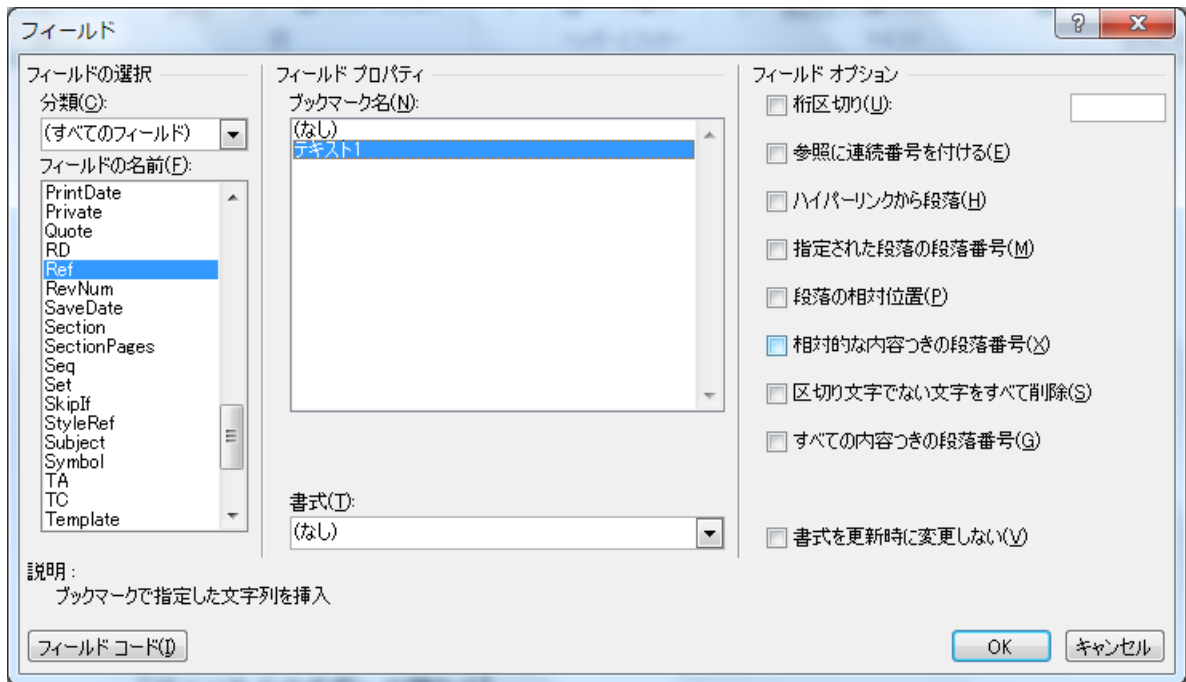
メニューから「フィールド」を選択します。



「フィールド」を選択すると以下のような画面になります



「フィールドの名前」の欄から Ref と書かれた部分をクリックします。



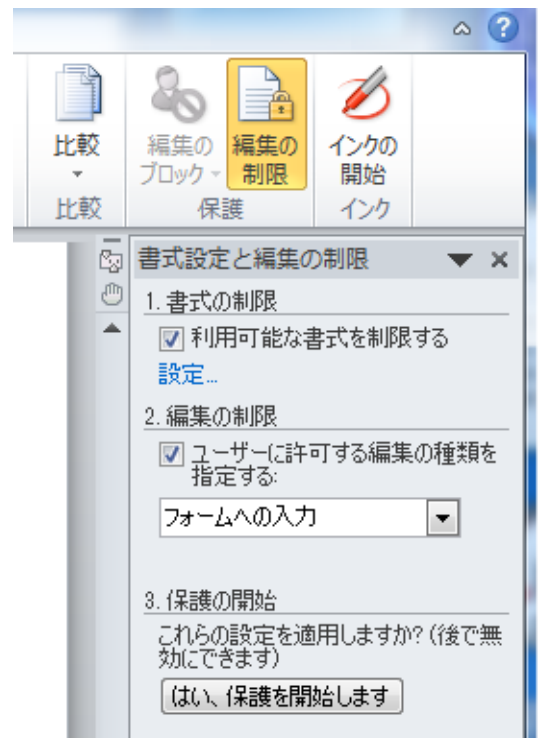
ブックマークの部分に先ほど入力したフォームフィールドの名前がありますので「テキスト1」をクリックして「OK」ボタンを押すとフォームフィールドを参照するフィールドが挿入されます。

## 5. 保護

以上の操作で参照できる状態になりますが、書き換えなくていい文書が出来上がったら「保護」を行います。

「保護」は「校閲リボン」の「編集の制限」を選びます。

表示された項目の「利用可能な書式を制限する」にチェックを入れて、「ユーザーに許可する書式を制限する」にもチェックを入れてその下のドロップダウンからフォームへの入力を選択した後、「はい、保護を開始します。」をクリックします。



## 6. メモ